



ボクの細道

梅雨の季節と言えども、その合間に差し込む日差しは、もうすでに、夏光線。濃さを増した樹々の緑を背景に、くつきりとした濃い影が描き出す夏のコントラストに、園全体が包まれていきます。

そこへ、満を持してプールの組み立て、2階テラスに日よけネットが張られると、誠美の夏の構えが出来るのです。

こうした初夏ならではの高揚感の裏側で、保育園運営に必要な事務書類作りがピークを迎えるのも、ちょうどこの時期。難しい文言が並ぶパソコンの画面を覗み、うぐんと唸りながら、首を2度3度とグルグルと回していると、決まってその私の後方を、子どもたちや保育者の楽しいげな声が、通過していくのでした。

そう、私のデスクのある部屋のすぐ外が、駐車場の表門から園舎裏の遊歩道へと続く抜け道になっているのです。

朝夕の時間は、遊歩道からお迎えに

入って来たお母さんお父さんの、少し乾いた感じの革靴の音が、コッコッコッコと近づいてくるのが聞こえます。お迎えを終えた帰り道は、パタパタパタパタと遊歩道へと駆け抜けていく子どもの靴音が先に聞こえ、その音が止まったかと思うと、突然「今日、カレー？」と後方へ問いかける声が響いてくる…。

また、そうした足音が突然に泣き声に代わることも。「あ、痛かったねえ。」との声に、そこまで調子よく歩みを進めていた「よちよち歩き」の足がもつれて転倒した様子が目に浮かびます。

左右に建物の壁が立ち上がる、まるでトンネルのようなこの狭い空間は、なぜか冒険心のようなものがくすぐられ、自分の足でくぐり通り抜けてみたくなる…そんな「抜け道」なのです。

聞かともなしに聞こえてくるこうした「音」の連鎖に、仕事の手を止め、壁の向こうの親子の姿と心情を思い描きながら、「うんうん」と腕組みをして、感じ入ってしまうのです。

さて、この抜け道の日中の通行人は、

ただければ幸いです。

描かれていくのは、限られた場面なのかもしれませんが、そうした日々の記録を読み重ねていく中で、「何をしたらか」以上に、どんな経験が期待されて、次なる展開の中に何が意図されているのかを感じてもらえる…そんな記録のあり方を、目指していきたいと思っています。

何が描かれるかより、私たちの見えなところでも、それぞれに意味ある経験が生まれていくこそが大事なことです。特定の場面であっても、それを表現し、振り返り、意味を問うてみることを重ねることが、そこで繰り返り広げられる、みんなの経験の質を上げていく…。

そう信じて。

園長 折井誠司

お散歩へ向かう子どもたちと保育者。園外から帰って来た時：「俺、一番！」と声をあげながら、全速力で駆け抜けていく足音や、後から到着した友だちを、脅かそうと「ば〜！」と物陰から投げ掛けられるいくつもの声。

戻ってくるみんなを、達成感や安堵感で満たしてくれるこの特別な空間。子どもたちや保育者によって繰り広げられる、その時々様々な「音」の応酬から、園外で味わった興奮の余韻のようなものが、私にも伝わってきます。

この抜け道の途中に、ちょうど食材の搬入口があります。お散歩から帰る頃には、ここにも料理の匂いが立ち込み始めて、ちょうどお腹も空いてきた通行人たちが：思わず搬入口の呼び鈴を押してしまおうと、給食スタッフと会話する声や、よく聞こえてきます。この日も、レコンやゴボウなどを囲んで、何やらやり取りが続いているようでした。

こうした日常のささやかな「食」を紹介したヒト(作り手)やモノ(食材)との出会いを重ねていくことが、食育活動そ

のものであることを実感する場面です。朝から晩まで：こんな抜け道で、様々なドラマが生まれています。起こっている「事」は、どこにもある他愛のない出来事なのですが、それぞれにとっては特別な「意味」を持つ経験なのです。

お気付きかもしれませんが、今少しずつ、園内の保育記録の書きぶりを変えていこうと試行錯誤を始めました。それはまさに、今まで以上に「事」から「意味」へと表現をシフトしていこうとする試みで、「何をしたらか」より、「どんな(意味の)経験だったのか」にフォーカスしていきたいとの考えからです。

しかし、担任に対する集団規模が大きい学年になるに従い、それぞれに異なるはずの経験の意味を、毎日全て網羅することは不可能です。なので、ある場面に着目した写真やコメントが増えていく一方で、「何をしたらか」といった全体を、網羅的に説明する写真や、ご自身のお子さんが写り込んだ写真も少なくなるかもしれません。限られた時間の中では、内容を絞らざるを得ないことを、ご理解い

●編集 誠美保育園
●発行人 折井誠司
●印刷所 誠美保育園
●発行所 社会福祉法人 誠美福祉会

〒192-0364 東京都八王子市南大沢5-1-2
電話 042-6975-1155
ファックス 042-677-5643
E-mail sebi@nokken.jp
http://nokken.jp/